

## 日本生殖看護学会ニュースレター

No. 17

Japanese Society of Fertility Nursing (JSFN)

## 目次

・巻頭言：事例研究を発表する上での倫理的配慮に対する理事会の見解	1
・特集：事例研究における倫理的配慮	2
・これから行われる学会・研修会等のお知らせ	4
・勉強会のお知らせ	5
・英国Royal College of NursingのFertility Nurses Forum Conferenceのお誘い	6
・第1回理事会報告	6
・第6回日本生殖看護学会学術集会のご案内	6
・もし不妊看護の現場で行き詰まったら	7
・不妊看護に関するQ & A	7
・掲示板 リプロ研究会セミナーのお知らせ	7
・看護者の「つぶやき」	8
・事務局からのお知らせ	8
・編集後記	8

## 巻頭言：事例研究を発表する上での倫理的配慮に対する理事会の見解



日本生殖看護学会理事長 森 明子

新年明けましておめでとうございます。新しい年をいかが迎えられましたでしょうか。本年も皆様のご多幸をお祈りするとともに本会が皆様のご発展に役立つようなご縁を結べるよう心から願っております。

さて、第5回学術集会における研究発表の場で、研究における倫理的配慮をめぐる質疑応答がなされました。匿名性が保持されていない点と発表に際し研究対象者の承諾の有無が問われ、倫理的配慮を欠いている発表だという指摘を受けました。それに対して、査読を経て審議された結果を踏まえ発表しているのに、一方的に指摘するのはいかがなものかという意見がアンケートに寄せられました。もとより理事の多くも会場に居合わせましたので、学会長を通じて理事会に問題提起されたこの論議を重要課題と受け止めた次第です。理事会では、学会長から査読経過の報告をしてもらい、今後に向け検討いたしました。当該発表抄録は2名の査読者から匿名性の保持の必要性について指摘された後、修正され再提出されたものであったことがわかりました。修正されているが、なお匿名性が確保できなかったということから、発表者ならびに学会関係者の両者において、研究における倫理的配慮とは何か、匿名性の保持とは具体的にどういったことが必要なのかについて共通認識がなかったために発生した出来事と判断しました。そこで、本会としては、発表抄録を提出していただく時に、倫理的配慮について確認できる具体的なチェックリストを作成することにしました。会員一人ひとりに周知し、次期学術集会から使用できるよう、ただ今準備中です。

本会の研究倫理に対する見解と具体的なチェックリストの整備がなされていなかったために、発表者の方には大きな心の負担をかけてしまい申し訳ありませんでした。学会としての反省もふまえ、今回ニュースレターの特集として事例研究における倫理的配慮を組みました。ぜひ、よき実践家、よき研究者として成長するために、一緒に倫理的配慮について考えてみましょう。

## 特集：事例研究における倫理的配慮

千葉大学看護学部 森 恵 美

### I. はじめに

本学会の会員は看護者が殆どであることから、実践した看護を振り返り他の対象者の看護に活かすよう、事例研究を行う機会が多い。事例研究を行う際も、看護専門職としての社会的責任を果たす意味から倫理的配慮を十分にしなければならない。

そこで、「看護研究における倫理指針」<sup>1)</sup>の内容を基本にして、看護の事例研究における倫理的配慮について解説する。

### II. 研究者等が遵守すべき基本原則

ICNの看護研究のためのガイドライン<sup>2)</sup>によると、研究対象者には4つの権利(①不利益を受けない権利、②完全な情報公開の権利、③自己決定の権利、④プライバシー、匿名性、機密性確保の権利)がある。研究者がすべき倫理的配慮は、研究対象者になる人間の人権、個人の尊重を軸にして、研究の潜在的リスクと利益に関する完全な情報提供等により研究参加の決定を自由にする権利を保証し、研究により害や不利益を受けないようにすることである。さらに、研究対象者がケアの受け手であり、脆弱性を有することにより、事例研究への参加を拒否することが困難な立場におかれていることを忘れてはならないとしている。

さて、先述の倫理指針<sup>1)</sup>で、ケアの受け手を対象に研究する場合の倫理的配慮として示している5つの留意点を事例研究に当てはめて以下に述べる。

- 1) 看護者の第一義的責任はケアの受け手に対する看護の提供にあるので、この責任は看護研究を遂行することより優先する。
- 2) 看護の事例研究は、対象となる人々の安全や安寧を損なうものでないこと、看護の質向上や看護に貢献する意義のあるものであることを十分に検討しなければならない。
- 3) 研究への参加について説明を行う際は、ケア対象者が研究参加を断りにくい立場に置かれていることを十分に認識したうえで、本人の意思を確認し、同意を得る必要がある。
- 4) 研究の全プロセスを通して、研究対象となる人の権利が擁護されるように、常にその人の言語的・非言語的な意思表示やサインを汲み取り、対象者の意思を慎重に確認する必要がある。
- 5) 看護者は通常の職務と研究活動を明瞭に区別する必要があるが、事例研究では区別することは困難である場合がある。しかし、職務の方を優先すべきであることは自覚して活動する。

### III. 事例研究における倫理的配慮の実践

#### 1. 研究対象者の抽出から説明まで

- ①研究者は、研究施設の者から、研究対象候補者の紹介を受ける。この手順は研究者等が個人情報にふれる危険性を排除し、研究に興味を示した者が研究対象候補者として抽出されることを意味し、対象者の個人情報保護の観点から重要である。研究者が所属する施設で研究を行う場合は、触れる個人情報を制限し、ケア提供前にできるだけ研究依頼をする。
- ②研究者は、研究対象者への研究の趣旨、目的、手順、研究参加により期待される結果及び利益、不快、不自由、不利益、リスクなどについて書面を用いてわかりやすく説明する。書面を用いることで、いつでもそれらの内容を確認できるし、他者に相談にのってもらうことも可能であり、十分な理解のもとに自由に自己決定をすることにつながる。
- ③研究参加の有無によって、研究以外の通常の診療や看護について影響を受けないことを説明し、通常の看護は公平に提供されることを保証する。

- ④研究対象となる人の状況を十分に考慮し、説明を行う時期に配慮する。
- ⑤研究対象者と説明者の関係性を考慮し、利害関係がある担当看護者による説明を行わないというように、研究参加を断りにくい状況避ける。
- ⑥研究者は研究対象者が質問できる機会をつくり、対象者の質問に十分に答える。
- ⑦研究への参加に同意するか否かは、本人の自由意思によって決定できるよう、同意を確認するまでに時間的余裕を持つ。第三者と相談してもよいことを説明する。

## 2. 研究参加への同意の確認

研究への参加について本人の自由意思によって決定したかを確認する。可能な限り文書による同意を得る。文書による同意を得ることが不可能、あるいは困難な場合は、口頭にて同意を得て、その旨を記録に残す。

## 3. 研究データの収集

- ①データ収集にあたっては、常に対象者の安全・安楽を守り、看護ケアの提供を優先する。研究対象者に予測される不利益・不自由等を最小にする方策を講じる。
- ②対象者に、研究の途中であっても、いつでも研究を辞退する権利を保障する。
- ③対象者からの抵抗感や拒否感について敏感に観察し、研究によって病状悪化等の不利益が見出された時には、研究者側から直ちに研究を中止し、速やかに必要な対応を行う。
- ④データ収集の過程で、プライバシー保護や匿名性の保護に努め、収集したデータや関連資料は厳重に管理する。
- ⑤個人情報保護法の規定を遵守し、職務上取り扱う資料（看護記録や指導記録等）を研究データとして使用する場合には、対象者の同意を得るとともに、施設内の取り決めに基づき、適切な手続きで行う。
- ⑥通常の職務遂行と研究活動における自己の役割と権限を区別する。
- ⑦データ収集後も、研究対象者の人権が守られ、研究参加により不利益が生じないように最善を尽くす。

## 4. 研究公表の段階

- ①プライバシー、匿名性等の保護、②倫理的配慮の記載、③結果の正当な解釈、④他者の著作権を侵害しない等について確認及び対応を適切に行う。例えば、対象者や対象施設をイニシャル表示や当院と表現することや、複数の特定なデータが連結することによって、個人や集団を特定することにつながるので、生データをそのままを用いない。②どのような倫理的配慮を行ったかを具体的に記載する。

## IV. おわりに

研究者が看護者でありケア提供を既にしている場合は、研究参加を断りにくい立場にある患者やその家族が研究対象者になることを心して研究に取り組まなければならない。生殖看護の対象者は、生殖医療を受けた対象者であることが多く、事例研究結果の公表によって、研究対象者への不利益だけでなくその家族（将来の子どもも含む）の人生が被害に遭う危険性が増大することを十分に考慮しなければならないと考える。

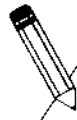
## 引用・参考文献

- 1) 日本看護協会：看護研究における倫理指針，2004.
- 2) International Council of Nurses (国際看護婦協会). 看護研究のための倫理のガイドライン. インターナショナル・ナーシング レビュー 1997, 20(1), 60-68
- 3) 日本看護協会学会検討委員会：看護研究における倫理的配慮に関する提言, 看護, 47 (2), 171-175, 1995.
- 4) ウィリアム L. ホルゼマー 早野真佐子訳. ICN「看護研究のための倫理のガイドライン」最新報告, インターナショナル・ナーシング レビュー 2004, 27(2), 37-39.
- 5) 稲岡文昭：研究発表・論文公表時の倫理的配慮と研究者の倫理, 看護研究, 2001, 34(2), 35-40.

## これから行われる学会・研修会等のお知らせ

月	日	学会・研修会名	会場	照会先・事務局
2008年 4月	12日～15日	日本産科婦人科学会学術講演会 (第60回)	パシフィコ横浜 (横浜市)	東北大学産科学婦人科学教室内 TEL: (022) 717-7251 FAX: (022) 717-7258 <a href="http://www.jsog.or.jp">http://www.jsog.or.jp</a>
5月	23日～25日	日本遺伝カウンセリング学会 (第32回)「遺伝カウンセリングの原点に戻るー遺伝カウンセリングの質向上を目指してー」	仙台国際センター (仙台市)	国家公務員共済組合連合会 東北公済病院7階南病棟 TEL: (022) 227-2211(代) FAX: (022) 227-2228 <a href="http://www.jsgc.jp/next_academic.pdf">http://www.jsgc.jp/next_academic.pdf</a>
	30日	日本不妊カウンセリング学会学術集会 (第7回)	ニッショーホール (東京都港区)	メディカルブレインサービス; TEL: (03) 3533-6531 FAX: (03) 3533-6532 <a href="http://www.jsinfec.com">http://www.jsinfec.com</a>
6月	1日～5日	28 <sup>th</sup> ICM Triennial Congress 2008 「助産ー女性、そして新生児のために世界規模での取り組みを」	グラスゴー (英国)	ICM Congress secretariat Tel: +44 (0) 141 331 0123 <a href="http://www.midwives2008.org/home.htm">http://www.midwives2008.org/home.htm</a> 日本看護協会 国際部 ICM大会担当 TEL: 03-5778-8559 FAX: 03-5778-5602
	21日・22日	日本母性看護学会 (第10回)	大阪大学 中之島センター (大阪市)	大阪府立大学看護学部 第10回日本母性看護学会事務局 TEL: (072) 950-2111 FAX: (072) 950-2131 <a href="http://www.mcn.ac.jp/bosei/">http://www.mcn.ac.jp/bosei/</a>
	21日・22日	日本保健医療行動科学会 (第23回)「健康格差社会における病気と医療ー行動科学的アプローチ」	山梨学院大学 (甲府市)	山梨学院大学経営情報学部社会学・社会病理学研究室気付; TEL: (055) 224-1349 FAX: (055) 224-1384 <a href="http://www.ygu.ac.jp/university/jahbs23rd.html">http://www.ygu.ac.jp/university/jahbs23rd.html</a>
7月	6日～9日	24 <sup>th</sup> Annual Meeting of the European Society of Human Reproduction & Embryology	バルセロナ (スペイン)	ESHRE Central Office TEL: +32-(0)2-269.09.69 FAX: +32-(0)2-269.56.00 <a href="http://www.eshre.com/emc.asp?pageId=195">http://www.eshre.com/emc.asp?pageId=195</a>
	19日～20日	日本女性心身医学会学術集会 (第37回)「性差の観点から女性の不安とうつを再考する」	東京女子医科大学 弥生記念講堂 (東京都新宿区)	Congress Corporation; TEL: (03) 3236-1396 FAX: (03) 3263-4033 <a href="http://www.jsfog.com/">http://www.jsfog.com/</a>
	20日	日本生殖看護学会学術集会 (第6回)	兵庫県立大学 明石キャンパス (明石市)	兵庫県立大学看護学部 TEL/FAX (078) 925-9424 (詳細は、追ってお送りします「学術集会のご案内」をご覧ください)
	19日	日本ウーマンズヘルス学会学術集会 (第7回)	リーガロイヤルホテル東京 (東京都新宿区)	東京女子医科大学看護学部; TEL (03) 3353-8111, (内7030) FAX (03) 3341-8832 <a href="http://www.whs.jp/">http://www.whs.jp/</a>

\*2007年12月18日現在の情報です。詳細は各学会・学術集会事務局へお問い合わせ下さい。



## 勉強会のお知らせ

### 関東地区 生殖看護実践勉強会

#### 【テーマ】「看護実践場面の記述方法について」- Part2 -

うまくいった看護、うまくいかなかった看護を記述し、他者に伝え、共有することは、自己の実践を振り返り、その実践知を他者と共有することにつながります。すなわち、事例から学び実践力を高める、事例報告、事例研究を通じて実践知が形式知になるということを意味します。そこで、本勉強会では、平成19年7月に開催した「看護実践場面の記述方法について」- Part 1 - をさらに発展させ、看護実践場面を記述し、事例を報告する具体的方法について学びます。「看護実践場面の記述方法について」- Part 1 - に参加されていない方も参加できます。

勉強会の内容は、参加者の皆様が日々の看護実践の中で気になっている看護実践場面について記述する、個人またはグループワークを行った後、参加者全員で意見交換を行います。各自、事例をご準備の上、ご参加下さい。

なお、お申し込みは、右記まで、ご氏名（フリガナ）、ご所属、ご連絡先電話番号（ある場合には、メールアドレス）、会員番号、参加証明書の必要の有無、「看護実践場面の記述方法について」- Part 1 - の参加の有無等を明記し、FAX かメールで2月15日（金）までお願いします。「看護実践場面の記述方法について」- Part 1 - に参加されていない方には、事前に Part 1 の資料をお送りします。

教育推進委員会担当理事 森 恵美

【日時】平成20年3月1日（土）14時～16時

【場所】千葉大学看護学部 〒260-8672

千葉市中央区亥鼻1-8-1

<http://www.chiba-u.ac.jp/general/about/map/route.html>

【参加費】500円（資料・お茶代）

#### 【申込み・問い合わせ先】

千葉大学看護学部母性看護学教育研究分野 坂上明子まで  
〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL: 043-222-7171 内線5722, FAX: 043-226-2414

E-mail sakajo@graduate.chiba-u.jp

### 第5回日本生誕看護学会九州地区勉強会

【日時】平成20年2月3日（日）14:00～17:00

【場所】国家公務員共済組合連合会 浜の町病院  
研修講堂（別館健康医学センター5階）

〒810-8539 福岡市中央区舞鶴3-5-27

電話（代）092-721-0831

ホームページ <http://hamanomachi.jp/www/>

【テーマ】「生殖医療と高齢化する対象者への看護支援を考える」

#### 【プログラム】

14:00～14:10 はじめに

14:10～14:40 講演

「不妊治療と高齢妊娠における遺伝相談について」(仮題)

国立病院機構九州医療センター 産婦人科医師 小川昌宣先生

14:40～14:50 質疑応答

14:50～15:00 休憩

15:00～15:20 事例発表

15:20～16:00 グループワーク

16:00～16:30 グループ発表

16:30～16:50 質疑応答・まとめ

【参加費】500円（資料・お茶代）

#### 【申込み・お問い合わせ先】

加来 久美（助産院フラウエンハウス加来 \*不妊症看護認定看護師）

〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田上の原3071

電話/Fax 0947-23-1138

E-mail: frauen-haus1138@wish.ocn.ne.jp

## 各地区で開催する勉強会の支援

教育推進委員会では、会員が主催する各地区の勉強会を支援したいと考えております。勉強会を企画されている代表者の方は、開催日時、開催場所、テーマあるいは内容、連絡先（住所、電話番号、FAX番号、メールアドレス）等を以下の連絡先までご連絡ください。よろしくお願ひ申し上げます。

教育推進委員会担当理事 森 恵美

\*\*\*\*\*

教育推進委員会担当理事

森 恵美 mori@faculty.chiba-u.jp

千葉大学看護学部 母性看護学教育研究分野

〒260-8672 千葉市中央区亥鼻1-8-1

TEL:043-226-2410, FAX:043-226-2414

## 英国Royal College of NursingのFertility Nurses Forum Conferenceのお誘い

テーマ: The Best Possible Start-making reproductive choices

日 時: 平成20年2月2日(土) 10:00~15:30

場 所: 英国 ロンドン Cavendish Square

主なトピックス:

- ① HPV Vaccination
- ② Chlamydia screening-are we screening the right sex?
- ③ Anti-mullerian hormone (AMH) or FSH
- ④ Embryo selection
- ⑤ Elective single embryo transfers

⑥ Opening the donor register

⑦ A personal experience

このカンファレンスは、生殖専門看護師と生殖ケアに関わる他の医療職が連携したり、それぞれの経験を共有することを目的として開催されています。

詳細や登録方法は、ホームページをご参照下さい。  
[http://www.rcn.org.uk/downloads/news\\_events\\_and\\_campaigns/events/Fertility\\_08\\_flyer.pdf](http://www.rcn.org.uk/downloads/news_events_and_campaigns/events/Fertility_08_flyer.pdf)



## 第1回 理事会報告



日 時: 2007年10月28日(日) 13時~16時

場 所: 聖路加看護大学 506

出席理事: 森明、村本、森恵、福田、野澤、遠藤、右森

### 【報告事項】

1. 会員数と入退会報告: 会員数254名、入会希望者6名、退会者15名。
2. 各委員会報告
  - 1) 編集委員会
    - ・投稿の現状と査読者制度について報告。
    - ・学会発表者の投稿依頼は、編集委員会で実施。
  - 2) 広報委員会
    - ・NL16号は発送済み。17号は11月に原稿依頼。
  - 3) 教育委員会
    - ・公開学習会は好評。次回の要望は特になし。
  - 4) 実践開発委員会
    - ・相談事例: 方言の使用についての問い合わせ。
3. 第5回学術集会報告
  - ・概要: 参加者161名のうち、当日参加は22%。
  - ・決算報告: 監査を監事より承認。
  - ・アンケート集計
4. 第6回学術集会の経過報告
5. その他
  - 1) 情報提供
    - ① リプロ研究会 セミナーのお知らせ
    - ② Royal College of Nursingによる Report of the second professional Survey
  - 2) 回覧資料
    - 厚生労働省雇用均等・母子家庭局 母子保健課長「平成19年度乳幼児突然死症候群の対策強化月間の実施について」

### 【審議事項】

1. 入会審査・・・6名の入会が承認。
2. 有限会社ヘルスサイエンス研究所からの相互リンク申請
  - ・本学会のHP紹介は支障がないが、相互リンクは辞退。
3. 将来検討委員会「研究助成利用の促進のための対策」
  - 案1) 教育機関に所属する会員に声をかけ、リソースパーソンとして会員に開示。
  - 案2) 看護研究の進め方のワークショップを開催。
  - 案3) ニュースレターで、大学院の情報公開。
  - 案4) これまで投稿や実践報告を多くした会員に勧奨。
4. 教育委員会の幹事の交代…高島氏→坂上氏が承認。
5. 学術集会での倫理的配慮について
  - 1) 本件の査読の経過を確認
  - 2) 査読システム…会員、および査読者の両者への教育的かかわりが必要。
  - 3) 公表のあり方…原則は、本人にICを取る。臨床研究は、ガイドラインにそって行うもの。
  - 4) 臨床研究の件数が減少する危険性
    - ・不妊ということから考えても、実践報告は困難。
    - ・不妊という特性からも、子供への影響まで配慮すべき。
    - ・ケーススタディのような場をもってはどうか。

→以上の議論を踏まえ、理事会の対応を会員に伝達。

  - ① 倫理チェックシートを作成し、演題投稿者に周知。
  - ② 会員へニュースレターに巻頭言と特集を組む。
6. 看護協会神戸研修センターからの依頼
  - 1) フォローアップ研修
  - 2) 不妊症看護認定看護師教育課程を対象とした調査

## 第6回日本生殖看護学会学術集会のご案内

平成20年7月20日(日)、兵庫で第6回日本生殖看護学会学術集会「カップルの親密さ:危機を乗り越えるための方略」を開催いたします。「カップルの親密さ」という普遍的な問題を掘り下げつつ、がん医療の場に見られ始めた生殖看護に絡む問題を提起していきます。また初の試みとして、会員限定の事例検討会を企画しています。臨床よりご提供いただく検討事例をもとに、参加者同士で振り返り、より良いケアを模索できる場になればと願っています。

皆様にとって有意義な一日となりますよう、企画委員一同、鋭意取り組んでいるところです。皆様のご参加、ご発表を心よりお待ちしております。詳細は、追ってお送りします「学術集会のご案内」をご覧ください。

## もし不妊看護の現場で行き詰まったら… 日本生殖看護学会が相談にのります

実際に患者さんと関わっていく中で、「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろうか?」「患者さんとゆっくり話が出来る環境を作るためにはどうしたらいいのか?」など、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じる事が有ると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えていきたいと考えています。現在、このシステムは日本生殖看護学会のホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) からのみのアクセスとなります。

会員の皆様からのご相談をお待ちしています! なお、お寄せいただいたご相談の中には、同じような悩みを持つ会員の皆様の参考になるものが多く含まれています。相談者の同意を頂いた上、相談後1年以上経過した後、相談された方が特定できない形に加工し、「不妊看護に関するQ&A」として、ニュースレターやホームページに順次掲載いたします。どうぞご了承下さい。

### ◆実践開発委員会で扱う“相談・問題”とは…

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談
4. 看護する場の改善(相談室開設など)にともなう相談 など

### ◆相談される場合は…

日本生殖看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入後、送信してください。後ほど、お返事を送らせていただきます。



## 不妊看護に関するQ&A

**Q.** 産科と併設のクリニックに勤めており、今後、不妊看護を積極的にやっていきたいと考えています。しかし出産数が多く、IVF-ETは月3件程度で、看護スタッフはなかなか不妊の患者さんに関われない現状です。検査技師=IVFコーディネーター1名、胚培養士1名がおりますが、どのように業務分担したらよいか、治療のサマリーや記録をどのようにしたらよいか、困っています。アドバイスをお願いします。

**A.** 患者さまを開く医療スタッフの一人として、看護師が積極的に活動していくためにどんな工夫が必要でしょうか? 不妊治療についての専門的な知識の研鑽と同時に、医師やIVFコーディネーター・培養士と協働していくこと、実際に治療に関わる看護スタッフとともにより良いケアを考えていくことが大切だと思います。そのための提案をいくつか考えてみました。

参考にしていただければ幸いです。

1. 医師やIVFコーディネーター、胚培養士をまじえて、定期的にクリニック内で勉強会や事例検討会を開催する。最初は他職種の方々に講師をお願いして開催し、少しづ

つ話が出来た方の事例検討をこちらからも提案してみる形で、無理なく続けるように。

2. 無理のない範囲でプライマリーを決めて関わる。IVF周期の患者さまに、同じスタッフがそばにいるところからケアを試みる。(シフトの調整が必要かもしれません)
3. 記録については、医師やIVFコーディネーター、胚培養士とともにフォーマットを決めていくことが最良だと思います。プライマリーが出来たとしても、同じ看護師が毎回関わることは難しいと思いますので、看護の記録では、下記のような情報を共有できるようにされたいかがでしょうか?

- ・その時々で、治療についてどのように発言されたか?
- ・カップルの男性・女性それぞれが、どんなことを問題だと思っているのか?

今の熱い思いはとても大切なものです。しかし、周りの状況を整えないと、なかなか実際の業務につながっていきません。是非、医師やIVFコーディネーター・培養士、看護スタッフと協働して、患者さまにとってよりよい環境での治療を提供できるよう、頑張ってください。

### 掲示板

## リプロ研究会 セミナーのお知らせ

DC (Donor Conception: 配偶子提供による生殖医療) を用いた生殖医療を希望するカップルに直面した時、どんなメッセージを送り、どんなサポートができるのか? 皆様と方向性を探ってゆきたいと思えます。医療者・配偶子提供による生殖医療に興味のある方のご参加をお待ちしています。

●企画・主催 リプロ研究会 (清水)

- 2回 テーマ: DC を利用した人 (親) から見た日本の医療と社会  
日 時: 1月26日(土) 13:30~16:30  
・平山史朗 (東京HART 臨床心理士)  
・赤城恵子 (カウンセラー)  
・AIDで親になった方  
場 所: 慶應義塾大学(日吉)(最寄 東急東横線 日吉駅)
- 3回 テーマ: 子どもの立場から見た AID の問題と要望  
日 時: 2月9日(土) 13:30~16:30  
・仙波由加里 (お茶の水女子大学)  
・AIDで生まれた方  
・川田ゆかり (IFC)  
場 所: 生涯学習センターばるーん (最寄 JR 新橋駅)

- 4回 テーマ: DC をめぐる法と制度  
日 時: 3月22日(土) 13:30~16:30  
・梅澤彩 (福山女学園大学 現代マネジメント学部)  
場 所: 都内未定
- 5回 テーマ: 子どもにどうやって事実を伝えていくか?  
日 時: 5月17日(土) 13:30~16:30  
・長沖暁子 (慶應義塾大学)  
・養親の方  
・清水きよみ (国際医療福祉大学)  
場 所: 都内未定

\* 要予約制です。参加ご希望の方は氏名・連絡先・職業・参加を希望するセミナーの回をFAX 0465-21-6538またはメール [kiyomi.ns@iuhw.ac.jp](mailto:kiyomi.ns@iuhw.ac.jp) にてお知らせ下さい。詳細・お問い合わせは、清水 (国際医療福祉大学) (0465-21-6651) までお願いします。

## 看護者の「つぶやき」

### \* H氏の「つぶやき」

先日、夫同伴の不妊相談をする機会があった。夫は妻が正常な精神状態か確認したいとのこと。妻は次のIVFをする前に第三者の助けを求めてみようとして来院したとのこと。過去2回IVFで妊娠したが、1回目は頸管妊娠、2回目は前置胎盤・羊水過少があり20週で人工妊娠中絶となった。胎動を感じていたという我が子を中絶したことはどんなに辛く悲しいことだったろう…と察したが、今までの経過を自分なりに理解しているからとニコニコして明るくあっけらかんと話す妻にとっても違和感を覚えた。話しているうちに妻は看護職であることがわかった。辛かった、悲しかったという類の言葉はでてこない。なぜかな?としばらく妻の話聴いた。そんな中、夫から「こうやって話しているけど、時々泣いたり

大騒ぎする。頭は正常か?」と質問された。妻の話から、看護職なんだから冷静でいなくていいといけなさがんばっているように思えた。どんな女性であれ、授かった我が子を失うことはとても辛く、悲しいことである。『がんばらなくていいですよ』と言うと、がんばってないですよ…と笑っていたが、そのうちに涙を流しはじめた。夫以外の人の前で初めて泣いたとのこと。そんなになんかがんばってきたのか、と胸が痛んだ。看護職の不妊相談をすることが時々ある。どのかたもあまり感情を表出しないように思う。私だけが感じるのか?看護職が医療現場で自分の辛さなどを表出するときの抵抗感がわからないでもない。そんな気持ちを理解しながら今後も関わっていきたくと思った。



## 事務局からのお知らせ

1. 日本生殖看護学会へのお問い合わせ、会員に伝えたい情報、ニュースレターに関するご希望・ご意見などがありましたら、FAX (03-5550-2266) もしくは、E-mail (jsin@slcn.ac.jp) で、お気軽にお知らせ下さい。
2. ニュースレターの送付は、安価な運送会社を利用しています。郵送と違い、転居している場合、転送することができません。従って、住所・氏名・所属等の変更がある方は、速やかにご連絡下さい。
3. お知り合いの方をぜひ日本生殖看護学会へお誘い下さい。入会希望の方がいらっしゃいましたら、入会案内をお送りしますので、お名前、ご連絡先をお知らせ下さい。
4. 日本生殖看護学会ホームページ (<http://jsin.umin.jp/>) を適宜更新しています。ぜひ新しい情報をご活用下さい。

## 重要 会費の納入をお願いします

会員の皆様、今年度の会費の納入はお済みですか?

「平成19年度会費」は、平成19年9月1日～平成20年8月31日までの諸活動に伴う会費です。今年度も皆様にご満足いただけるような様々な企画を準備しています。まだお済みでない方は、納入をよろしくお祈いします!!

## ニュースレター16号のお詫びと訂正

9月に発送させていただきましたニュースレター16号(2)ページ14行目に、印刷の誤植「ポスター発表(ケーキや飲み物で懇親会もかねて)」がありました。ここに関係者にお詫び申し上げますと共に、以後このようなことがないように再発防止に努めていきたいと思っております。

### 編集後記

この季節、クリスマスのイルミネーションがとてもきれいですね。神戸の街もルミナリエ(阪神・淡路大震災犠牲者の鎮魂の意を込めると共に、都市の復興・再生への夢と希望を託し、大震災後から開催している「光の彫刻作品」)を目指して、全国各地からたくさんの方が集まってきました。また、昨今では屋外にイルミネーションを飾る家が増え、「イルミネーター」と呼ばれているようですが、皆さんのお家はいかがですか。

あっとい間に今年も終わりを告げようとしています。「師走」とはよくいったものだと思います。皆さんは、どんな一年でしたか? 私ごとですが、今年のクリスマスとお正月は初めて南半球で迎えます。次号では、ぜひそのお話(きつと奮闘記でしょうね)もできたらと思っていますので楽しみに待っていてください。

新年は、ネズミ(巳)のようにフットワーク良く広報活動を進めてまいりますので、引き続きよろしくお祈いします。

(広報委員:野澤美江子、塩沢直美、林はるみ、安成智子)

### 日本生殖看護学会

Japanese Society of Fertility Nursing : JSFN

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1  
聖路加看護大学内

TEL & FAX 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp(当面、このアドレスを使用)

ホームページ <http://jsin.umin.jp/>